

## 『幸福を見つけて』

多久市立東原摩舎東部校 8年 徳島<sup>とくしま</sup> 唯<sup>ゆい</sup>

戦争は最大の人権侵害であると言われている。人々は昔から争い、数えきれないほどの人々が命を落としてきた。勝者は敗者を従わせる、そんな考えが「人権」を粗末にしてきたのだ。そして、今もその事態が起きている。

ニュースでよく見かけるウクライナとロシアの戦争。六ヶ月ほどに続く戦争はまだ終わる気配もない。両軍たくさんの兵士が懸命に戦い、早く争いを終わりたいと強く願っていることだろう。私たちが過ごす毎日に一日でも早く戻りたいと思っているはずだ。でも、そんな世の中があたりまえだとなりつつある今がとても怖く思う。かわいそうだ、気の毒だ、そんな声が聞こえても止めることができる人はいない。寄付やボランティアに参加し、懸命に戦う人々を支えることができても戦争を終わらすことができる人はいない。それは仕方のないことでもあるし、私にはボランティアでさえも行うことはできない。でも、その戦争を「どうすることもできないことだ」と流し、受け入れ始めてしまう事が怖いのだ。

国のために尽くす彼らにも、きっとその人を待つ者はいる。私は、ニュースで「戦う夫を一人で国に残せない」と危ない故郷でも残る人を見た。逃げる人も残る人も皆、泣いていてとても心を素手で握られているような心の痛みを私は感じた。誰かを思う人がいるからこそ、私が寝ている時にでも戦い続けられる原動力をもらっているんだと思う。そして私はその力になれるのは、一

番は家族だと思っている。賞状を貰った時に一緒に喜んでくれて、怪我をしたときには一緒に悲しんでくれる心の支えがいるからこそ、私は元気になれたし、自分がだれかに寄り添うことができた。そんな家族が彼らにもいると思う。お父さんが帰ってくるのを待つ娘、泣きながらも支える母。ウクライナとロシアが故郷の人々に、心の底から笑えて、たくさんの幸福が来ることを願っている。

私は、生まれてから一度も戦争に近いものだと感じたことはないし、命の危機だと思ったことも一度もない。お腹が空いたらご飯を食べて、疲れたと思ったらテレビを観れる。私はこの環境はみんなが憧れる環境だと強く思う。お金持ちになりたい、才能が欲しい、そんな思いをみんなが持てるのは自分の周りの環境が恵まれているからだ。こういった身近な幸せを私たちは感じていないだけで存在しているのだと思う。

しかし、そんな身近な幸せすらもらえない人が世界にはいる。それは、戦争の苦しみを抱える人もいれば家族のために働く子供たちもいる。戦争は必ずしも起こさなければいけないものではないし、子供たちは環境や家庭の問題による本来では行ける学校にも通わせてもらえない。戦争は誰もが、良いものだとは思っていない。でも、誰かが戦争を望んだから戦争は始まった。命を軽く見てしまう人がいるんだと思うと素直に悲しいと感じた。

私はそんな戦争を始まってから止めるのではなく、未然に防ぐことが大切だと思う。私の祖母は戦争を経験しているのだという。経験しているからこそ、

昔はこんなの食べられなかったとか便利になったねとか、よく聞く。私は、こういった言葉は祖母が戦争を経験しているからなのだと思うとより納得できた。私たちの世代は戦争というものを詳しくは知らないし、なかなか興味を持てる話でもない。でも学校ではよく戦争で被災された方のお話であったり、資料館に行って学んだりすることは多い。こういった世代を超えて伝えていく行為にはただ日本の昔を知ってもらうだけではなく、私たちの世代で戦争を二度と起こさないように、という私たちに向けた熱い思いがあると感じた。戦争はつらいもの、悲しいもの、改めて知ってほしいからこそその体験であると思うと私は今まで聞いてきた戦争の話も違った見え方を感じられた。「戦争は最大の人権侵害」罵声も聞こえれば差別も起こる。そこから感じることは、悲しみや辛さだけではない。戦時下の人々が伝えたい思いを私たちが正確に読み取って、戦争は私たちに関係ないもの、といった考えは持つてはいけない。私たちに伝えられた思いをまた次の世代へ。戦争と共に、私たちは歩き続けることが大切だと思う。

人権は生まれながらに持っていてそれぞれの幸福を追求する権利である。自分や誰かの幸福を見つけ出し、人の幸福を勝手に壊してはいけないのだと思う。戦争について深く知りながらも、二度と誰かの幸福を奪わずに、自分もたくさんの人と一緒に「幸福」を探していきたい。